

## 「ぱっちゃんガエルを作って、あそぼう」(生活科：2年C組)

三重大学教育学部附属小学校教諭 志賀 剛

### I はじめに

生活科に於ける教科目標は、学習指導要領に「具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な生活習慣や技能を身につけさせ、自立への基礎を養う。」と記されている。また、学習内容については、8つの内容が示されている。本実践は、その内容の8つの中で、「自然や身近なものを使って遊びを工夫したり楽しんだりすること」に関わるものである。本題材では、身近にある牛乳パックと輪ゴムを使って、ぱっちゃんガエルの材料や作り方、遊び方を工夫し、仲間と関わりながらぱっちゃんガエルを作ったり、作ったもので遊んだりして活動を楽しむことをねらいとしている。その中で、捨ててしまうとゴミになる物も自分達がそれらを活かし工夫することで、みんなで楽しめる手作りおもちゃになるということを実感し、捨ててしまう物の中にも有効に活用することができる物もあるという発想や物を大切にしていこうとする態度を育てていきたいと考えた。そうすることが、物(資源)を有効に使おうとする子どもを育てることにつながると考える。

### II 題材について

本題材である「ぱっちゃんガエル」は、子ども達の身近にある牛乳パックを使って作る手作りおもちゃである。材料は、牛乳パックと輪ゴムである。材料となる牛乳パックは、各自で家にある牛乳パックを集めた。作り方は、集まった牛乳パックを図1のように開き、図2のように切る。そして、図2の牛乳パックに切れ目を入れ、その切れ目に輪ゴムを図3のようにつける、という簡単な作業で作ることができる。



図1

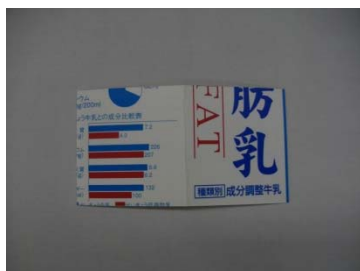


図2



図3

### Ⅲ 授業の概要

授業の中では、集めた牛乳パックを使って、ぱっちゃんガエルを作ったり、作ったぱっちゃんガエルで遊んだりする活動と活動したことを交流したり、学習プリントに記述したりして繰り返す活動を行った。作ったり、遊んだりする活動中は、自分達が準備をした牛乳パックを使って、一生懸命にぱっちゃんガエルを作ったり、作ったぱっちゃんガエルを使って友だちと楽しそうに遊んだりする姿がたくさん見られた。活動中の子ども達の会話の中には、「牛乳パックでこんなものが作れるなんてすごいな。」「家で牛乳パックの他のおもちゃを作ってみよう。」といった声も聞かれた。

#### ぱっちゃんガエルを作る様子



子ども達は、牛乳パックの大きさや形を変えたり、絵を描いたりしながら、その子なりの工夫をしてぱっちゃんガエルを作っていた。材料は牛乳パックであるが、大切に作り、自分の作ったぱっちゃんガエルを大事そうに扱う様子が見られた。また、本時以降には、作り方を覚えた子ども達は、家で見つけた、厚紙や段ボールなどの材料を持ってきて活動する姿も見られた。

## ぱっちゃんガエルで遊ぶ様子



子ども達は、作ったぱっちゃんガエルを使って、高く飛ぶように工夫をしたり、友だちとどちらが高く飛ぶか競争をしたりしながら、活動する姿が見られた。自分で材料を集め、それを使って作ったぱっちゃんガエルが高く跳ぶ様子を見て、子ども達は大変満足そうであった。

## 交流やふり回り活動の中で出された材料に関する気づきや感想（抜粋）

- ・牛乳パックでみんなで楽しめるおもちゃが作れるなんて、すごいと思った。
- ・捨ててしまう物でも材料になる物も多いと思うので、捨てる物でも他に何か利用できないか探してみようと思いました。
- ・牛乳パックとは違う材料で、もっと作れないかやってみたいと思いました。
- ・ぼくは、お菓子の空き箱で作ってみたけど、作れました。捨ててしまえばゴミだけど、楽しめてよかったです。
- ・牛乳パックはいつも資源ゴミに捨てていたけど、こんなおもちゃが簡単に作れるなんてすごいと思いました。
- ・これも1つのリサイクルだと思った。もっとリサイクルしたい。
- ・牛乳パックでも工夫をすればいいものができることが分かりました。

## IV おわりに

2年生では、この実践の他に「ゲームランドをひらこう」という活動も行った。段ボールや空き箱、ペットボトルなどを使って、班でゲームコーナーを開き、幼稚園や1年生の子どもを招待した。材料を集めるときには、ぱっちゃんガエルで捨ててしまう物を活かしたという経験を基に、子ども達なりに廃材を活かせるように考え、工夫していた。そして、自分達は材料厚めや道具作りに苦勞をしたが、頑張っ



て作ったゲームコーナーを幼稚園や1年生の子どもが喜んでくれたことに対して、大変満足することができた。

2年生の子ども達にとって、リサイクルとはどういうことなのか、リサイクルの意味や価値を十分に理解することは難しい。しかし、今回の取組によって、2年生の子ども達なりに、物を有効に活用したり、捨ててしまう物を自分達のために活かしたりすることの良さについて、実感することができたのではないかと考える。このような経験を重ねることが、子ども達が大きくなり、資源や環境のことを考える際の基礎となっていくのでは無いかと考えると共に、その様になっていくことを期待している。



ゲームランドをひらこう 写真1



ゲームランドをひらこう 写真2



ゲームランドをひらこう 写真3